

令和元年度「維孝館学園」クリエイト会議 第3回地域・広報部会まとめ

1. 日 時 令和元年12月6日（金） 19時00分～21時04分

2. 場 所 宇治田原町総合文化センター 研修室1

3. 出席者 柘植部会長 外 委員7名 事務局3名 計11名

4. 内容等

①部会長あいさつ

第2回専門部会以降、教育制度部会において1つの方向性が出たこと、また他市町で開校している小中一貫校へ視察に行くという動きがあった。

②事務局説明

前回の地域・広報部会のまとめ及びその後の改善点、取組事例について説明。

○お知らせチラシについて

- ・転入された方に対する広報として、転入手続き時に配布するためのチラシを作成し、担当窓口である税住民課へ配布を依頼。
- ・子育て支援センター、保育所、保健センターにチラシを配架。
- ・PTA開催の家庭教育セミナーにおいて、来場者に配布。

○町ホームページについて

- ・トップページの「教育委員会」をクリックすると、次に「小中一貫教育」へ進めるように改良。また、バナー広告にも「小中一貫教育」を作り、同様にワンクリックで進めるようにする予定。
- ・住民の方々が疑問に思っていることについてまとめたものを掲載。
- ・「維孝館学園」クリエイト会議の議事内容を掲載。

③広報のあり方について

○町広報紙「町民の窓」について

- ・教育関係の記事が少なすぎる。
- ・文字ばかりではなく、もっと砕けた感じのものをつくることはできないのか？
- ・開校にまでに小さなコラムを設けることはできないか？継続的な発信ができるとうい。
- ・今は決まってから表に出る状態なので、今現在の進行状況がわかるような記事を掲載できれば良い。

- ・直接関わりのない人にも読んでもらうためには、文章が多いものではなく、パッと目を引くような話題が必要。そのようなものを見つけてでも載せるべき。
- ・特集という形で大きく紙面を割いて、その後で小出しで掲載していく。クイズ形式のものでもいいのでは？

○町ホームページについて

- ・Q&Aみたいなものがあればいい
- ・メールアドレスや電話番号を載せるのが親切ではないかと思う。

○学校だより、学校ホームページについて

- ・学校からの発信は学校だよりで定期的に掲載している。
- ・画像があるといいとの意見を踏まえ、維孝館学園のホームページを改良。
- ・学校だよりにQRコードを付ける予定。
- ・学校ホームページに掲載されている写真が魅力的である。
- ・「スマートフォンをお使いの方へ」というのはありがたい。

○広報の対象について

- ・教育に熱心な方がもっと知りたいという場合と、興味のない人を巻き込みたい場合とによって広報の方法が違うので、まず対象者をはっきりしないといけない。
- ・まずは教育に興味を持っている人を広報の対象にすべき。

○その他

- ・関係者が集まって、小中一貫教育についての大討論会をしても良いのでは。やはり関係者が盛り上がらないと進まないと思う。

○まとめ

- ・町民の窓を活用することについて意見が一致。その中で、教育の内容をさらに知ってもらえる場となっても良いし、よりポップな感じにして、教育に関心がない人にも、今宇治田原の教育が変わろうとしていることを気付いてもらえる場にすれば良い。内容については、教育委員会が作り、地域・広報部会が発議するなどの方法があるので、検討課題とする。

④地域との関係について

○部会長より報告

- ・2つの学校を視察し、地域の役割をととても感じた。
- ・学年（9学年）の分け方、クラス数、通学方法、保護者の関わり方等について2校で違う点、また共通した点について説明。
- ・地域・保護者の中に受け入れる受け皿がないので、今のPTA役員を中心に、PTAを核としたプラットフォームづくりをしようと提案したことを報告。
- ・区長会、地域の人をサポートが課題である。

○意見交流

- ・子育てに最もエネルギーを出してもらわないといけない方々が、他の行事等によって子育てにマイナスになることを懸念しているので、その部分を地域の方がカバーできる形でその行事を作っていこうと進めている。プラスアルファの意見を持ってもらえるのか懸念している。
- ・地域の方がどれだけサポートしながら子育て世代の意見を吸収できるかが課題。

※地域がどのように学校運営に関わっていくのか、コミュニティスクールとはどういう組織か、について説明。

- ・旧奥山田小学校が化石広場として残っているがイベントの際に子どもがたくさん集まり、地元のお年寄りがとても喜んでおられたので、子どもはすごく大事だと感じた。やはり、田原小、宇治田原小も地域の場として活用してほしい。

○まとめ

- ・今後、地域について議論していくことについて確認し、認識を共有。